

平成 30 年 11 月 吉日

会員各位

ASDO・JSCA 東京共催 技術研修会のお知らせ

シリーズ「風を考える」

建築物の設計で考慮すべき風現象と耐風設計の基本事項（その 2）

講師：東京工芸大学名誉教授 田村幸雄先生

共催 東京構造設計事務所協会（ASDO）

日本建築構造技術者協会（JSCA）

今年も日々寒さに向かう季節となりましたが、皆様におかれましては相変わらずお元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。

日頃より、ASDO・JSCA 共催の当技術研修会に熱心にご参加頂きありがとうございます。今回の研修会は、前回に引き続き、東京工芸大学名誉教授田村幸雄先生を講師にお招きして「風を考える」の第 2 回研修会となります。実施要項が以下の通り決まりましたのでご案内申し上げます。

第 1 回では、風圧力の設定は外壁材が健全であることを前提としているので、耐風設計＝外壁材の設計であること、構造物に作用する風圧力のほとんどは負圧で、その大きさは正圧よりも大きいこと、風の負圧力によって引きはがされ、飛来物となった仕上げ材の衝突が風の被害を拡大していること、強風に伴う豪雨や高潮による複合災害が、より甚大な被害を及ぼすこと、近年国内各地で竜巻被害事例が多くなったことなど、多くの興味深いお話を聴くことができました。

今回の連続研修会は、構造設計者の構造物の耐震設計に比べて必ずしも意識が高いと言えない耐風設計に関する意識を深めることを目的としています。第 1 回をお聞き逃した方でも、田村先生のお話と配布される資料の内容が大変分かり易いので、2 回目以降からのご参加でも十分にご理解できるはずです。また現在中国を中心に活動されている田村先生のご講演を聴講できる貴重な機会でもあります。皆様の奮ってのご参加をお待ちしております。

田村幸雄先生よりのメッセージ

第 2 回の講義では、以下の 4 項目について、紹介する。

- (1) バフティング、渦励振、オバリング、ギャロピング、振れフラッタなど、構造物の風による振動現象
- (2) 平均風速、瞬間風速、乱れの強さ、乱れのスケール、変動風速スペクトル、ガストファクター、ピークファクターなど、強風の性質
- (3) 大気境界層内での風速鉛直分布と地表面粗度
- (4) 再現期間、風向係数など設計風速関連事項

第 1 回の講義において、参加者が予想以上に多く、少し念を入れてやり過ぎましたようで、当初予定の半分程度しか消化できませんでした。第 2 回の講義内容は、その後半部分を予定します。

開催要項・参加申込用紙

テーマ：シリーズ第2回「建築物の設計で考慮すべき風現象と耐風設計の基本事項（その2）」

日時：2019年1月8日（火）18：00～20：00

受付：17時30分より

場所：日大理工学部駿河台校舎1号館 6階 CSTホール

プログラム：司会 市村隆幸（株親交設計）

18:00～18:05 趣旨説明 金田勝徳（株構造計画プラス・ワン）

18:05～19:35 講演 東京工芸大学名誉教授 田村幸雄先生

19:35～20:00 質疑応答

参加費：ASDO 正会員・準会員・賛助会員・会員事務所所員、JSCA 会員 ￥1,500
非会員 ￥2,000 学生 ￥500

参加希望の方は本申込用紙にご記入の上、E-MAIL または FAX にて下記まで申し込み下さい。

申込締切日 2018年12月25日（月）

問合せ先（株）親交設計 TEL 03-5215-3033

申込書送付先 e-mail:kensyul@asdo.jp FAX：03-5215-3034

東京構造設計事務所協会 御中

2018年 月 日

1月8日（火）開催の ASDO・JSCA 東京共催 研修会に参加を申し込みます。

氏 名

所 属

会員種別 （ 正 準 賛助 ） 会員 非会員 学生

日本大学理工学部駿河台校舎1号館 案内図

